学校番号	3006

令和８年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	デザイン計画	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	高等学校用デザイン計画　（文部科学省／海文堂出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

デザイン領域は、プロダクト・ビジュアル・スペースおよびファッションの 4 領域に大別される。本科目では、工業科の学校設定科目の利点を活かし、前者 3 領域に関して開講する。ものづくりに必要な技術は、多くの知識や経験に裏打ちされた法則によってのみ成立し、多くの先人が創り出したものに他ならない。このことを踏まえて生徒は、各領域に共通する基礎知識を学習し、計画的・発展的にデザイン活動への意識を養う。この科目は、ものづくりに関わる工業技術者の育成に貢献することを目的とする。

2　学習の到達目標

【知識および技術】

プロダクトデザイン領域では、素材の特性や応用領域に関して、材料学的な検討を経て生物材料および無生物材料の応用例について理解する。

【思考力・表現力・判断力等】

ビジュアルデザイン領域では、色彩構成や要素のコンポジションについて「視覚」の観点から検討し、「おさまりの良い」デザイン表現について身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】

スペースデザイン領域では、インテリアデザインおよび建築デザインの両極から検討し空間構成の重要性を住環境の視点から関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生徒は、デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。同時に工業に関わる諸活動の意義や役割を理解している。また、環境に配慮しながらものづくりの技術を適切に活用できる。	デザインに関する諸課題の解決をめざして思考を深める。生徒は、学んだ知識と技術を応用して技術者として適切に判断する。また、表現する創造的な能力を身に付けている。	デザイン全般に関わる課題について関心をもち、生徒はその改善・向上をめざして主体的に取り組む。その結果、実践的な態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	プロダクトデザイン	・工業製品および工芸品に関わる学習。 ・材料および加工技術に関わる学習。 ・応用事例に関わる学習。	a:設計・製作工程を学習して理解できること。 b:材料の特性を理解し、製品の完成度への影響を判断できること。問題解決する能力が身に付いていること。 c:自発的・能動的に取り組んでいること。	定期考査	ドリルノートの評価、1DAY 課題	観察
二学期	ビジュアルデザイン	・グラフィックおよび広告デザインに関わる学習。 ・色彩に関わる学習。 ・応用事例に関わる学習。	a:視覚特性について学びその効果を理解できること。 b:色彩構成の基本を学び、製品の完成度を高めること。 c:自発的・能動的に取り組んでいること。	定期考査	ドリルノートの評価、1DAY 課題	観察
三学期	スペースデザイン	・SDGｓおよび環境に関わる学習。 ・建築およびインテリアデザインに関わる学習。 ・応用事例に関わる学習。	a:生活環境構築の技術を学び、暮らしに応用された知識を理解できること。 b:持続可能な循環型社会を実現するため、自分の意見を持って表現できること。 c:自発的・能動的に取り組んでいること。	定期考査	ドリルノートの評価、1DAY 課題	観察

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度